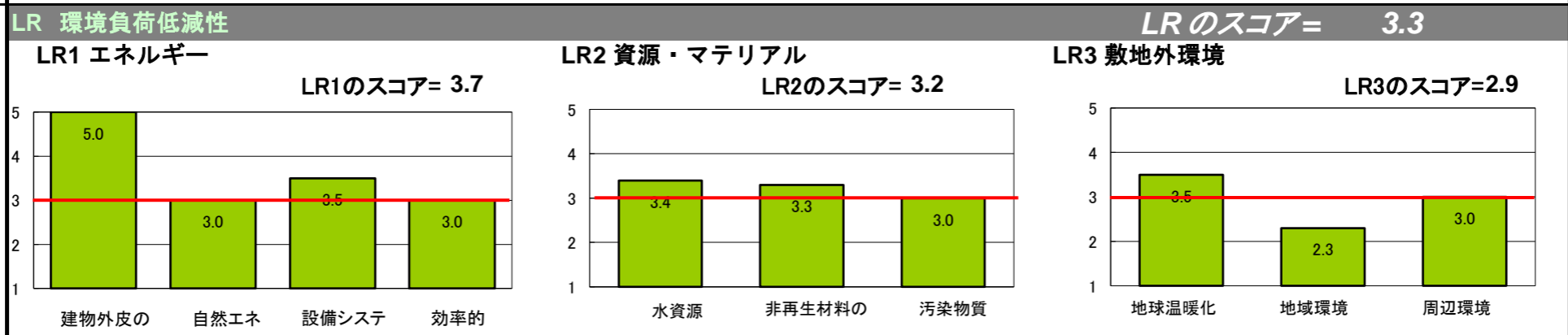
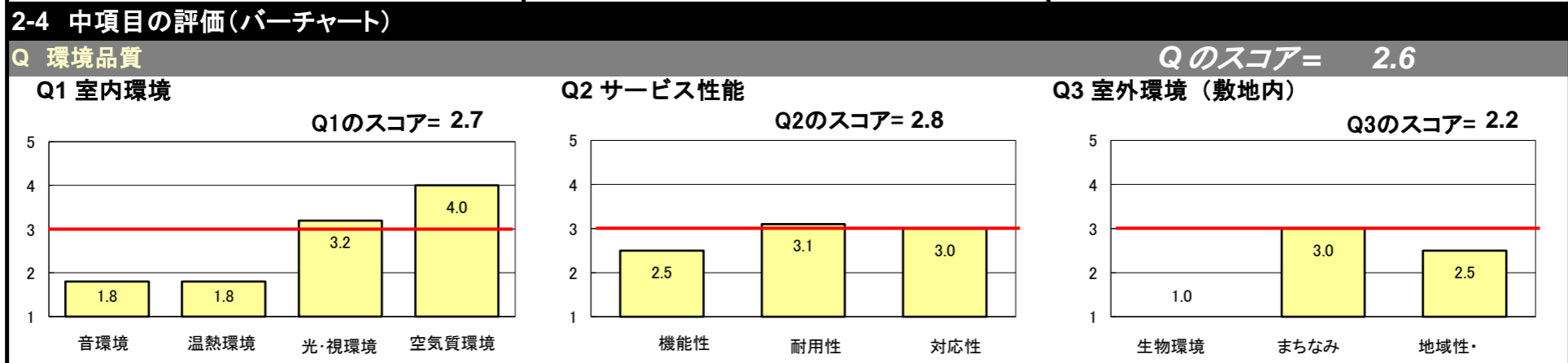
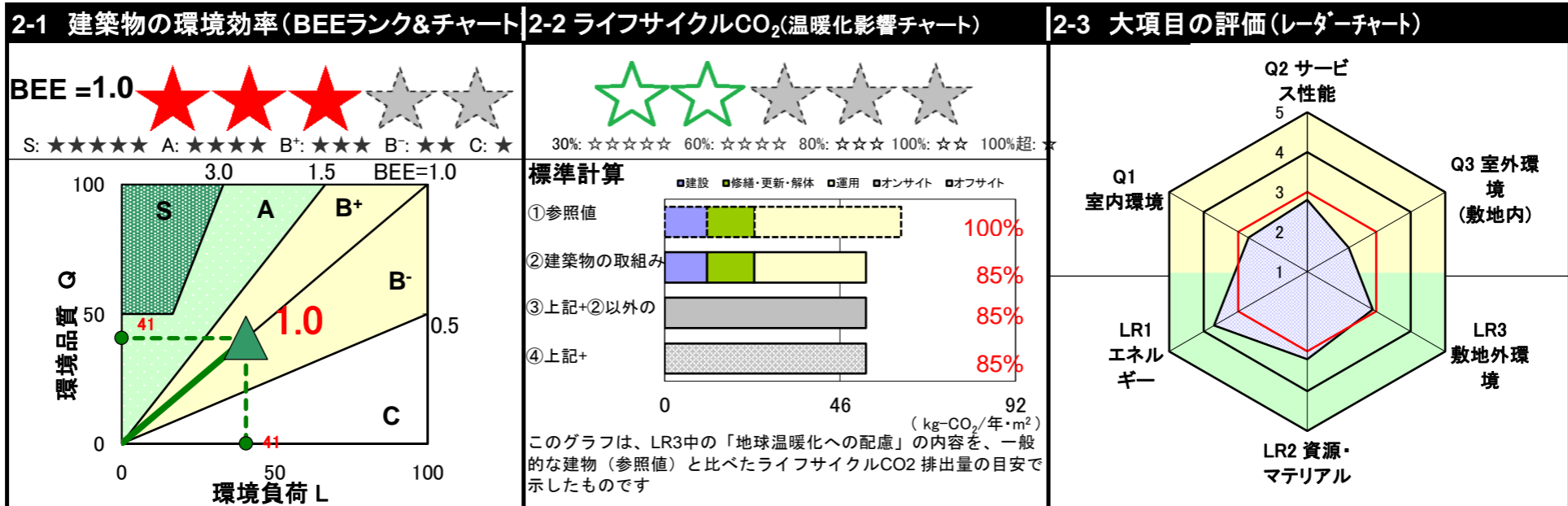


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)江南市立古知野北部地区複合公共施設	階数	地上2階
建設地	愛知県江南市和田町宮141番,142番,143番,144番の一部	構造	S造
用途地域	用途地域指定なし、防火指定なし	平均居住人員	200人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,920時間/年
建物用途	学校集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2022年2月 予定	評価の実施日	2021年2月25日
敷地面積	1,231 m <sup>2</sup>	作成者	野津 智
建築面積	507 m <sup>2</sup>	確認日	2021年2月25日
延床面積	883 m <sup>2</sup>	確認者	戸崎仁志



### 3 重点項目

<p>①地球温暖化への配慮</p> <p><b>3.5</b></p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p><b>1.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>
<p>②資源の有効活用</p> <p><b>3.1</b></p>	<p>④地域材の活用</p> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数			
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>										<b>2.7</b>
<b>1 音環境</b>										<b>1.8</b>
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
<b>2 温熱環境</b>										<b>1.8</b>
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
<b>3 光・視環境</b>										<b>3.2</b>
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
<b>4 空気質環境</b>										<b>4.0</b>
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO <sub>2</sub> の監視										
2 喫煙の制御										
<b>Q2 サービス性能</b>										<b>2.8</b>
<b>1 機能性</b>										<b>2.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
<b>2 耐用性・信頼性</b>										<b>3.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	-	-	-	3.0
3.1 空間のゆとり				0.3	3.7	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	3.0	0.22				
2	空間の形状・自由さ		壁長さ比率0.281(計算書による)	3.0	4.0	0.78		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	2.2	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.1	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②		-	3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性		S造のため、躯体打ち込み無し。1F床も土間であるため構造体に該当しない	3.0	4.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性			3.0	3.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保			3.0	3.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30		-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30		-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	3.0	0.40		-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	2.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-		-	-	3.3
LR1 エネルギー					-	0.40		-	-	3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.65	3.0	5.0	0.30		-	-	5.0
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20		-	-	3.0
3 設備システムの高効率化			BEI=0.76	3.0	3.5	0.30		-	-	3.5
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング			-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制			-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30		-	-	3.2
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓+ 節水器具(M16機器表に記載およびカタログ添付)	3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.3	0.63		-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	再生砕石(RC40)を土間下採用	3.0	3.0	0.21		-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	-	-		-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	分別比較的容易:ALC+吹付断熱+LGS+ボード、OAフロア(A12仕上表)	3.0	4.6	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68		-	-	
1	消火剤			-	-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50		-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30		-	-	2.9
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率85%	-	3.5	0.33		-	-	3.5
2 地域環境への配慮				0.3	2.3	0.33		-	-	2.3
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.5	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自		-	3.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			-	1.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自		-	-	-		-	-	
3	悪臭			-	-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.1	0.40		-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.66		-	-	
2	砂塵の抑制		外構は、ほぼ全面的に舗装(A13配置図)	-	5.0	0.07		-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.26		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30		-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)江南市立古知野北部地区複合公共施設

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>3.5</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.1</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:0%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)		<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)江南市立古知野北部地区複合公共施設

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> <li>■採光などの自然環境、構造・設備などの建物性能、採用建材などについて環境向上に寄与する設計に配慮</li> </ul>
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■大型開口部による採光・換気確保とともに、庇・カーテンで日射制御も考慮</li> <li>■規制対象外又はF☆☆☆☆のみ使用</li> <li>■施設内禁煙化</li> </ul>
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> <li>■耐震強度に割り増し採用</li> <li>■衛生配管は耐久性のあるものを採用</li> <li>■無停電電源装置設置</li> <li>■空間のゆとり配慮(壁長さ比率高評価値を確保)</li> <li>■構造体への打ち込み設備配管無し</li> </ul>
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> <li>■セットバックにより道路への圧迫を軽減</li> </ul>
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■外皮の熱負荷制御に配慮</li> </ul>
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> <li>■節水器具採用</li> <li>■リサイクル材、リサイクル可能材の採用</li> </ul>
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>■舗装により砂塵発生の抑制が期待できる</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■周囲に比較的古い民家もあることから、和風の屋根デザインを採用</li> </ul>